大隅教育事務所だより
一隅を照らす山と野と渚の教育
～心に灯をともし，郷土に誇りをもち，夢を育む大隅の教育～
第３号
令和７年
１月８日発行

将棋から学ぶ～「３手の読み」と「大局観」～

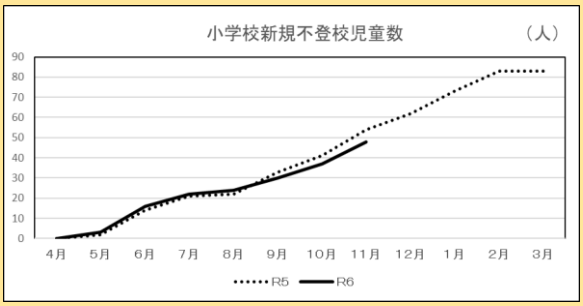
大隅教育事務所 管理課長　富　卓哉

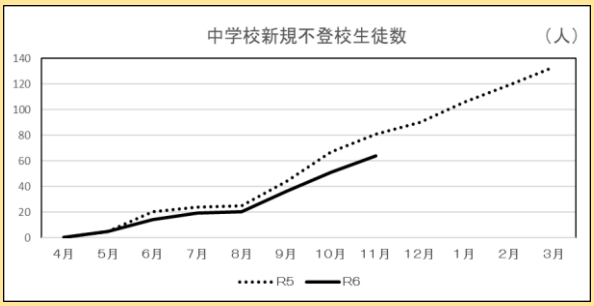
私は最近，子供と将棋を打つことを楽しんでいる。素人の私でも最初は勝つことができていたが，徐々に負けることが多くなり，今ではほぼ勝てなくなってしまった。負けたことが悔しくて将棋の本を借り定跡（過去の対局や研究から最善とされる手順）を学んでいる子供の姿を見て，想像以上の成長の速さに驚かされる。私も強くなろうと羽生善治九段の本を読んだが，そこに印象に残る言葉があったので紹介したい。それは，「３手の読み」と「大局観」である。この２つを常に意識すれば大きな間違いはしないというのである。読みとは，ロジカルに考えて判断を積み上げ，戦略を見付ける作業のことである。では，「３手の読み」とは，まず自分にとって最善の手を考える，次に，その手を受け相手がどのような手を打つかを客観的に考える，そして，相手が打ってくる手を予想し，それに対応した手を考えるということである。１手目と３手目は自分の番なので思うように指すことができるが，２手目は相手の立場に立ち，相手の発想で予測する必要があるため難しく，「３手の読み」で最も大切だと言われている。「大局観」とは，具体的な手順を考えるのではなく，全体像を見て，今の状況やこれから先の方針を大枠で捉える力のことを指し，「俯瞰する」という表現が同じ意味である。若い人であっても経験を積み重ねることによって「大局観」を身に付けることができ，徐々に精度も上がり，大筋で間違っていない選択ができるようになるというのである。

「３手の読み」も「大局観」も相手と戦う時にだけ重要なものではなく，日常における他者とのコミュニケーションや業務においても当てはまるものだろう。独善的な言動は往々にして失敗の原因となる。着地点を見据えて大枠での方向性を意識しながら，（目の前の事態には）相手の立場を踏まえて注意深く分析して次の行動を決める。我が子は，今はまだ私との対局で勝つことに夢中だが，ゆくゆくは将棋から色々なことを学び，物事を俯瞰し，相手の気持ちを理解できる人になってほしいと願うとともに，私もこのごく当たり前のことを継続できるよう心にゆとりをもちたいと思う。

新規不登校児童生徒数，減っています！

本地区は，重点課題として「不登校の改善」を掲げており，年度当初から各学校に対して「魅力ある学校づくり」の取組の推進をお願いしてきているところです。各学校では，意識調査を基に，全ての児童生徒を対象に学校の楽しさや授業の分かりやすさ，自己肯定感などを視点に全校態勢で取組を進めていただきました。現在までの取組の結果，新規不登校児童生徒数に変化が見られています。





令和６年11月現在，小・中学校ともに昨年度より減少し，「魅力ある学校づくり」の成果が出始めています。この取組を継続し，不登校児童生徒数の減少を達成しましょう！

【地区内で取り組まれている主な具体的方策例】（取り組んでいる主な市町名）

○　計画的・系統的な構成的グループエンカウンターの実施（鹿屋市・東串良町・肝付町）
○　不登校傾向が見られた初期段階での個別支援の充実と不登校児童生徒家庭を対象とした保護者会（曽於市・志布志市）
○　学校風土の改善，児童生徒や地域と共に考える校則検討会や教員行動の改善（錦江町・南大隅町）
○　ＩＣＴを活用した児童生徒一人一人の心身の状態把握と早期支援（垂水市・大崎町）

指導法改善を図るために！各教科・領域等の研究協力校による研究推進

「ジリツした学習者の基盤」の育成（大崎町立大崎小学校）

令和６年 10 月 29 日（火）に，大崎町立大崎小学校にて，地区研究協力校の研究公開が行われました。同校では，研究主題・副題を「生き生きと学び，高め合う子供の育成～国語科で育むジリツした学習者の基盤～」と設定し，研究に取り組んでこられました。具体的には，ＯＥＣＤで提唱されている学習プロセスである「ＡＡＲサイクル」を取り入れた学習過程を通して子供が自らの力で学習を進められるような力を育んだり，育成を目指す資質・能力を「国語の道具」として明示して子供に学びの連続性や積み上げを実感させたりするなどの視点を設定し，「ジリツした学習者の基盤」の育成を目指しました。

当日の１年生の授業では，既習事項と該当単元における新たな学びとを関連付けながら，児童が単元全体の見通しをもつ姿が見られました。また，３年生の授業では，該当単元で新たに獲得した「国語の道具」を活用しながら，児童が身に付けた資質・能力について自覚する姿が見られました。さらに，５年生の授業では，学習形態や対話の相手等を児童自ら選択・決定しながら課題解決を図る姿が見られました。研究協議においても，「ジリツした学習者」の育成に向けた教師の支援の在り方について，活発な意見交流がなされました。

主体的に体力向上に励む生徒の育成（鹿屋市立細山田中学校）

令和６年 11 月 12 日（火）に，鹿屋市立細山田中学校にて，地区研究協力校の研究公開が行われました。同校では，研究主題を「運動の楽しさを実感し，主体的に体力向上に励むことができる生徒の育成 ～仲間と共に学び，自己肯定感を高め合う体育活動の実践を通して～」として，「教科指導」「教科外指導」「健康教育」の３つの観点から全校体制で研究に取り組んできました。

当日は，第３学年「体つくり運動」の授業が行われ，生徒が自分の課題に応じて体力向上の運動を選択する姿，試した運動について気付いたことを伝え合う姿など，協力して主体的に課題解決を図る様子が見られました。また，活動の流れや計画を改善するポイント等を確認できる板書等の掲示，正しい運動の行い方を確認するタブレットの活用等も工夫していました。

研究協議でも，「生徒が楽しそうに運動に取り組んでいた」「課題に応じて生徒自らが運動を選択･工夫する様子が参考になった」「計画が今後の継続した実践につながることが大事」等の意見が聞かれました。学校全体で行う体育指導の充実に向けて，研修を深める貴重な機会となりました。

自らの考えを深める間接指導の充実を目指して（鹿屋市立高隈小学校）

令和６年 11 月 19 日（火）に，鹿屋市立高隈小学校で地区研究協力校の研究公開が行われました。研究主題は「協働的な学びを通して自らの考えを深めていく学習指導の在り方～極少人数，複式学級における間接指導の充実を目指して（算数科）～」です。

当日は，複式指導による第１学年の「ひき算」と第２学年の「かけ算⑶」の授業が行われました。ガイドの進行や話合いの視点が掲示された板書等のサポートにより，子供が安心して自走できる環境が整えられていました。そして，ガイド役を中心に１年生は減々法を，２年生は多様な解決方法を見い出すなど，学びを深めていく姿がみられました。また，研究協議では「今年度からガイド学習を始めたとは思えないほど，子供たちが自ら学習を進めていた」「小規模校で協働的な学びは難しい点があると思っていたが，教師側の工夫で取り組める」といった意見が交わされ，ガイド学習の充実や協働的な学びを実現するための方策が話題となりました。中でも，複式学級だけでなく，単式学級の学習指導にも生かしていきたいという声が印象的でした。

学び続ける初任者（地区フレッシュ研修）

研究授業研修（教科）

５月 29 日（水）に鹿屋市立上小原小学校，６月 20 日（木）の午後にリナシティかのやを会場に実施しました。６月の研修では，５月実施予定日の天候不良のため，録画した授業の映像を見ながら，研修を行いました。参加者は学習者主体の授業づくりの視点で，児童生徒の意見を引き出す発問や，児童生徒の意見を生かして他の児童生徒の考えを引き出す方法を検討しました。

【参加者の感想】

主体的な授業の要素としての①興味・関心，②見通し，③粘り強い学習，④振り返りの４つの視点を大切にし，実践と省察を重ねていきたい。（小）	ゴールを見据えた授業をつくり，教室内での指示の出し方，目配り，問い掛けなどの工夫を行い，生徒のつまずきやひらめきを引き出し，発展させられる授業を目指したい。（中）

他校種参観Ⅰ

６月 20 日（木）午前，県立鹿屋特別支援学校を会場に実施しました。

校長先生やコーディネーターの先生の講話や施設参観，グループ協議を通して，児童生徒の教育的ニーズに対応した適切な指導及び必要な支援の具体や校種間連携の重要性などを理解するよい機会となりました。初任者の中には，特別支援学校の先生方から聞いた効果的な指導について，熱心にメモを取る姿が見られ，頼もしさを感じました。

【参加者の感想】

学校全体で児童を育てる・見守ることを行うことで個々の自立を促すことにつながる。周りの先生方を頼ることを大切にしていきたい。（小）	生徒一人一人の状況を，複数の教員で見つめ，どんな支援ができるのか考え，どこまで指導し，どこまで支援するのかを考えていきたい。（中）	教職員が工夫することで，すべての生徒が学びやすい環境をつくることができる。「誉習」「復唱」「ありがとう」を実行していきたい。（高）

研究授業研修（道徳）

11 月 13 日（水）に錦江町立大根占小学校と錦江中学校，11 月 14 日（木）に鹿屋市立東原小学校を会場に実施しました。参加者は，授業者が実際に行う単元の指導案を事前に考えていたため，当日のグループ協議では「自分ならどのように授業するか」という視点の下，「考え，議論する道徳」の授業実現について，多くの意見が交わされました。

【錦江町立錦江中学校】

【参加者の感想】

どのような教具や発問を用いて，心を揺さぶるのか，工夫が必要である。子どもたちから「～したい」というような言葉がたくさんでる授業をしたい。（小）	生徒にとっての１回かぎりの授業なので，「ねらい」を定め，教師の「思い」を伝えきるための，生徒理解と準備，教材研究の重要性を改めて感じた。（中）

【鹿屋市立東原小学校】

【錦江町立大根占小学校】

令和６年度全国学力・学習状況調査鹿児島県結果分析

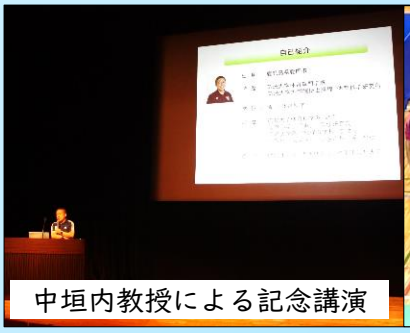
このことについて，本県の結果分析が県教委ホームページに掲載してあります。
ついては，各学校の研修等において，学力向上及び指導法改善のために活用していただきますようお願いします。

〈参考〉
ホームページ掲載場所
ホーム ＞ 教育・文化・交流 ＞ 学校教育 ＞ 学力 ＞ 全国学力・学習状況調査結果
＞「令和６年度全国学力・学習状況調査鹿児島県結果分析」

お知らせ　令和７年度全国学力・学習状況調査　→　中３理科の学力調査はＣＢＴ化にて実施されます

スポーツを「する・観る・支える」
～鹿児島県スポーツ推進委員研究大会＆県民レクリエーション祭～

10月19日（土）・20日（日）に，第59回鹿児島県スポーツ推進委員研究大会及び，第40回県民レクリエーション祭が鹿屋市で開催されました。


中垣内教授による記念講演

「武術太極拳」の体験の様子

スポーツ推進委員研究大会では，鹿屋市出身で，鹿屋体育大学教授の中垣内真樹先生から「スポーツがもつ可能性～学術的立場から私が想うこと～」というテーマで記念講演がありました。高齢化社会が進む現代において，幸福に暮らしていくためには体力と認知機能の維持が大切であるということや，健康寿命を延ばすために意識して体を動かすこと，また楽しみながら体を動かすことなどの大切さを，実技を交えながらお話しくださいました。わずか半日の研究大会でしたが，スポーツ推進委員としてスポーツを啓発していく上での課題を共有したり，資質の向上を図ったりする様子が見られました。

県民レクリエーション祭では，鹿屋市串良平和アリーナ内外で，健康体操やニュースポーツ，パラスポーツ等を含む22種目の体験コーナーが設けられ，生涯にわたる健康で活力ある生活づくりに向けて参加者が相互の触れ合いの中で汗を流す姿が見られました。スポーツやレクリエーションを通した連帯感や健康増進の輪が広がることを期待する一日となりました。

大隅地域の歴史や魅力を再発見（地区埋蔵文化財発掘調査現地研修会）

令和６年10月17日（木）に，南水ヶ迫Ｂ遺跡（志布志市志布志町）と志布志市埋蔵文化財センター（志布志市志布志町）にて，地区埋蔵文化財発掘調査現地研修を開催し，41人の参加がありました。南水ヶ迫Ｂ遺跡では，日南・志布志道路建設に伴い，昨年５月から調査が行われ，令和７年２月末まで見学することができます。志布志湾を望む標高約55ｍの台地上にあり，約26,000年前の旧石器時代から約500年前の室町時代にいたる各時代の人々の暮らしの跡が見付かっています。旧石器時代に，穴を開けるのに使った石錐（せきすい）や動物の皮をなめすのに使った掻器（そうき）などの石器や，石器をつくった跡が残されています。また，縄文時代に，調理の施設とされる集石や連穴土坑（れんけつどこう），約10,000年前の石坂式土器や石鏃（せきぞく）が残され，落とし穴もつくられていることから猟場となっていたことがわかります。さらに，平安時代後半から室町時代にかけて，人々が行き交い青磁（せいじ）や白磁（はくじ），華南三彩（かなんさんさい）などの高価な陶磁器が見つかっています。

当日は文化財課と（公財）埋蔵文化財調査センターの職員から丁寧な説明を行っていただきました。

参加者は，先代の人々がどのように暮らしていたかを学び，先人の知恵や功績を深く理解し，大隅地域の歴史や魅力を再発見していました。各学校では埋蔵文化財の重要性やその価値を理解するとともに，社会科見学やフィールドワークを通じて埋蔵文化財に触れる機会の設定やデジタル教材の活用等，未来へ継承する活動を推進していただきますようお願いします。

南水ヶ迫Ｂ遺跡の豆知識

道跡に関しては，大小の溝跡や縦横に走る多くの道跡が残り，東西方向に約 18ｍの長さで検出されています。硬化面の幅が広いことから，主要道路として利用されていた可能性があります。そして，多数の道跡（古道硬化面）が重なるように検出されている部分もあり，人々が行き交う場所として利用されていたようです。

このような歴史ある道跡の上に，日南・志布志道路が新たに建設されます。さらに人の往来が始まることに時代を超えて，ロマンを感じます。